

1. 基本事項

施設名称	川崎市多摩川の里身体障害者福祉会館	評価対象年度	令和6年度
事業者名	・事業者名:社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名:佐川 道夫 ・住所:川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害者施設指導課長
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害者施設指導課

2. 事業実績

利用実績	【生活介護（作業室なかのしま）】 ・契約者数:23名(定員20名※令和7年3月31日時点) ・食事提供数:4,003食、入浴サービス:501回			
	【講習会】 ・手話入門講習会(昼間) 全8回 149名 (夜間) 全8回 123名 ・点字入門講習会 全5回 43名 ・要約筆記入門講習会 全8回 36名 ・音声訳ボランティア入門講習会 全5回 67名 ・小学生のための福祉交流学習 全3回 40名 ・下田小学校講習会: 全4回 120名			
収支実績	収入 支出			
	給付費・利用料他	107,708,029	人件費	82,930,789
	指定管理委託料	25,497,000	事務費	18,232,027
	拠点区分間繰入	0	事業費	9,750,922
	その他	3,934,873	事務局経費	7,587,897
			その他	1,002,148
	合計	137,139,902	合計	119,503,783
	収支差額 17,636,119円			
サービス向上の取組	・利用者の意思決定支援につながるような取組を日課から取り入れるなど、サービス向上に取り組んだ。 ・理学療法士による機能訓練のプログラムの調整及び身体機能の評価や、外部の講師に依頼して音楽療育を継続的に実施することで、利用者の身体及び感覚機能の維持向上に取り組んだ。			

3. 評価 (評価段階: 5~1, 標準: 3, 加点割合: 5→100%, 4→80%, 3→60%, 2→40%, 1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を著実に実施しているか 利用者の障害特性に応じた個別支援を実施しているか	10	3	6
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか 指定管理施設としての事業目的を達成することができたか	10	4	8
	【評価の理由】 【利用者への支援】 ・人員配置を手厚くすることで、利用者それぞれの支援に関わる職員が多くなり、より適切な支援の実施につなげることができた。 ・利用者が様々な社会経験を積むことで、選択肢の幅も広がり、自らの意思決定が行いやすくなることにより、必要に応じて洋服等の買物を行うことや、オセロを中心とした他施設との交流会を実施することで、物の選択や金銭の受渡し、また、普段関わらない方と交流する機会を提供し、意思決定支援を実施した。また、交流会については、今後とも利用者が新たな経験や体験をできるよう、ポッチャやモルックなど新たな取組の実施に向け、他施設と引き続き調整を行った。				
	【事業成果】 ・会館の指示や講習会の開催などの会館事業に係る情報については、区役所や図書館等への掲示やチラシの配布、町内会の提示板への掲示や回覧、タウンニュースへの掲載など、様々な方法で広報活動を行うとともに、貸館事業においては、必要に応じて、プロジェクトやOHCなどの備品貸出を行い、利用者が快適に利用できるよう運営することで、令和5年度と水準の利用実績を確保した。 ・小学生を対象とした福祉交流学習として、手話体験や車椅子体験等実施するとともに、利用者と小学生が一緒にゲームをして交流する機会を設けるなど地域福祉活動が促進されるよう取組んだ。また、これまで3日間の参加を要件としていたが、1日のみの体験参加が可能とするなど多くの方が参加いただけるよう工夫も行った。				
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか 支出に見合う効果等が図られているか	5	3	3
	収入状況	計画通りの収入が得られているか 案例に基づく利用料等を適切に徴収しているか	5	3	3
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか 事業収支に関して適正な会計処理がなされているか	5	3	3
	【評価の理由】 【支出状況・収入状況】 ・収支については、概ね適正に執行された。 【適切な会計手続】 ・外部の公認会計士による監査を受けており、監査結果も指摘事項はなかった。				
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか 利用者への支援を適時かつ十分にしているか	10	4	8
	サービス向上への取組	現状分析、課題把握等を常に行っているか サービス向上に向けた取組がなされているか	5	4	4
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか 意見・要望の対応に迅速かつ適切に対応しているか	5	4	4
	【評価の理由】 【適切なサービスの提供】 ・職員配置を手厚く配置するとともに、入浴前の健康チェック（検温、血圧測定等）を行うなど、適切に入浴サービスの提供に努めた。 ・月2回、外部の理学療法士が機能訓練プログラムの調整や身体機能の評価を実施することによって、利用者を状態に即した機能訓練を提供することにつながり、利用者の身体機能の低下を予防するとともに、適切なサービス提供を行った。 ・身体及び感覚機能の維持向上に向けた取組として、月2回外部講師に依頼し、音楽療育を実施した。利用者が様々な楽器を使用することで、体のへたや音を楽しむことができた。 【サービス向上への取組】 ・日課活動としてレクリエーションについては、運動機能の維持向上への取組として、日常生活において、体を動かして何かをする機会が少ないという課題感を踏まえ、音楽に合わせた、身体を取り入れたことや、利用者の意思決定支援につながる取組として、これまで利用者が体験したことのないレクリエーションを実施できるよう、床に的を置いて下に矢を落とすルールのゲームを企画・実施するなど、工夫して運営を行った。 ・障害福祉サービスを利用している方の普段の生活が地域住民に認識されていないことや地域からの声を踏まえ、福祉でつながる地元交流会の中で、職員が利用者の生活についてパワーポイントを用いた説明を行うとともに、グループホームに入居している方や生活介護事業所に通所されている方も参加していただき、地域の方や職員とのグループディスカッション等を実施しました。このことにより、地域の方が利用者の生活を知る機会につながると、地域における障害者への理解や障害者福祉を促進した。 【利用者の意見・要望への対応】 ・現利用者や新規利用者が面談サービスを利用しやすいよう、利用者等からの要望を踏まえ、適宜、送迎コースの変更について検討を行うなど、利用者のニーズに沿ったサービスを提供した。 ・昨年度の家族会での要望を踏まえ、今年度は北部地域支援室の機能や利用方法等についての説明や、北部在宅支援室の手車椅子のメンテナンスについての講義の実施など、年6回の家族会を開催し、利用者及びその家族の生活が充実するよう運営を行った。 ・年度内にあった利用者からの要望を踏まえて、商店街のお祭りや音楽祭などへの外出を企画・実施するなど、利用者からの要望に対して迅速に対応した。				

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	4	4
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	3	3
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等) 緊急時の連絡体制を構築しているか	5	3	3
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用がなされているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
(評価の理由) 【適正な人員配置・連絡・連携体制】 ・仕様書の基準を上回った人員を配置することで、より丁寧な支援につながった。 【担当者のスキルアップ】 ・職員の支援力向上を図るため、内部研修や外部研修への参加や日々の支援の振り返りを行った。 【安全・安心への取組】 ・避難訓練への参加が難しい利用者が訓練に参加できるよう、利用者と一緒に訓練の企画を行うことで、当事者意識の醸成と訓練への参加につながるなどの工夫して運用した。 ・事業所内で発生した事故やヒヤリハットについては、発生日のミーティングにおいて、情報共有を行うとともに、発生原因や今後の予防策について、職員間で話し合いの場を設けるなど、事故防止を徹底している。 ・管理者やサービス管理責任者から各職員宛てにメールで連絡を行える体制や、夜間でも法人事務局と連携が行えるような体制を整備するなど、法人内で緊急時の連絡体制が構築されている。また、利用者や利用者家族への緊急連絡の際は、メール・電話・FAXなどの複数の連絡手段を用いる体制を整えるなど、非常時に備えている。 【コンプライアンス】 ・法人で規定している規則等に基づき、事業運営を行った。 【職員の労働条件・労働環境】 ・職員から有給休暇の希望があった際には、事業所内でシフト調整を行うなど、有給休暇を取得しやすいような体制づくりについては、継続的に取り組んだ。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
	(評価の理由) 【施設・設備の保守管理】 ・駐車場の出入口に段差が生じた際にも、適切に修繕を実施するなど、施設設備を適切に点検・整備している。 ・施設・設備の保守点検や清掃・警備等については、業者に業務を委託し、適切に保守管理を行った。 【管理記録の整備・保管】 ・法人の規定に基づき、適切に管理した。 【備品管理】 ・所管課に備品の増減について報告を行うとともに、適切に管理した。				

4. その他加

分類	項目	着眼点			評価点
その他加	市の政策課題への取組	第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大や地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力、障害者の法定雇用率を越える雇用などを行っているか			0
加	(評価の理由)				

5. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点
評価ランク:A→E,標準: C, A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・理学療法士による機能評価や利用者・親族への意向確認を定期的に行うなど、個々の利用者に合った支援が提供できるよう努めた。 ・ノーマライゼーションに向けた取組として、地域での障害者福祉の増進に積極的に取り組んだ。
--

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・新規利用者の受け入れが行えるよう、適切に職員の雇用を進めること。 ・利用者支援に必要なスキルや資質が職員に身につくよう、研修等を継続的に実施すること。
